

2021 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079100154		
法人名	有限会社ライフ企画		
事業所名	グループホームなのはな	ユニット名	
所在地	福岡県みやま市高田町黒崎開697-1		
自己評価作成日	2022年1月7日	評価結果市町村受理日	2022年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム『なのはな』は、高田町西部の田園風景に囲まれた所にあり、自然に恵まれている。ホームの中から楽しい歌が聞かれ、毎日、栄養バランスに配慮した、手作りの食事を職員も一緒に食べている。ご利用者もケアカンファレンスに参加して頂き、意見や要望をお聞きしている。代表は、「職員を大切に」と常日頃言っており、管理者もその気持ちを第一に思っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2022年4月25日	評価確定日	2022年5月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームなのはな”は2023年（来年）に開設20周年を迎える。開設時に植えた八重桜も綺麗な花を咲かせており、ご利用者も“春”を楽しまれている。今後も気候に応じて、敷地内の散歩などを増やしていく予定である。リビングから朝日を眺めることもでき、大きな声で朝日にご挨拶をされる方もおられる。リビングやテラスから小学生が登校する姿が見え、お互いに手を振り合う関係もできている。開設以来変わらず、3食手作りの食事が作られ、地域の方や家族、職員から野菜や果物の差し入れもあり、季節を感じる美味しい料理が作られている。ご本人の意思を大切にしたい関わりも継続し、ご利用者もケアカンファレンスに参加し、要望を伝えている。長く勤務している職員も多く、全職員が結束し、日々のケアが行われている。職員同士の助け合いもあり、定時に帰ることもできている。コロナ禍、外部研修に参加できる機会が減っており、今後は事業所内のネット環境を整備し、オンライン研修を受けられる機会を作りたいと考えている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、皆で読み合わせ一日をスタートしている。	職員全員、理念を大切にされている。「1.敬愛の念を持ち、自立支援のお世話をさせていただきます」の実践では、食事、排泄、入浴などを含め、ご本人のできる事を引き出している。「2.穏やかに、安心できる時間を共に過ごします」の実践では、ご本人の想いに寄り添い、優しいケアが行われ、3食手作りの食事を楽しませている。「3.地域、ご家族、ご利用者、スタッフそれぞれの交流が深まるよう・・・」の実践では、コロナ禍で地域交流は難しくなっているが、家族との窓越しの面会等を継続し、職員との会話を楽しませている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、できていない。	コロナ以前はふれあいサロンに参加していたが、コロナ禍はサロンの方が塗り絵用のカレンダーを届けて下さっている。近所の方から野菜等の差し入れもあり、有難く思っている。コロナ以前は地元の祭り「大蛇山」もホームに来て下さり、「お話し会」の方や傾聴ボランティアの方も紙芝居や歌を唄って下さっていた。小中学生との交流もあったが、コロナ禍は小学生の方が登場するDVDをリビングで流し、ご利用者と楽しませている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の班長さんへ、月一回支払いの為に伺い、お話ししている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、運営推進会議が開催できていないが、状況報告をお送りし意見をお聞きしている。	コロナ前まで年3回はホームで行い、他は市内の3つのホーム合同で開催していた。コロナ禍は書面会議に切り替え、ホーム内で運営推進会議と身体拘束廃止委員会を行い、書面で報告している。参加者の方からご連絡を頂き、日々の取り組みの労いを頂いている。日々の暮らしぶりや活動報告と共に、自己評価（外部評価）も報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類提出もかね、管理者やケアマネが本庁を訪問している。	管理者や介護支援専門員がみやま市の本庁を訪問しており、感染対策などの情報もいただいている。指定更新時の実地指導も受け、ホームの取り組みに関する情報交換が行われた。利用者数の報告もしており、地域包括にも空き情報を報告している。	

6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍で、玄関の施錠をしている。	身体拘束廃止委員会を毎月行い、運営推進会議のメンバー（市の職員、家族代表、地域の有職者）に書面で報告している。他の施設の虐待事例も共有し、職員の背景などの情報交換を行っている。玄関の施錠はコロナ感染対策であり、リビングの窓や勝手口の鍵は開けている。コロナ以前は身体拘束排除取り組み施設の見学に参加し、職員間で情報共有を行っていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃、ご利用者様の心身状態の変化に、気付くスタッフばかりで、虐待防止には注意を払っている。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約書に、権利擁護に関する内容も入れている。	入居時に制度を説明し、家族関係を含めて制度の必要性を確認している。コロナ以前は「成年後見人制度について」の研修を受講し、研修内容は他の職員に回覧したり、勉強会を行っていた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は『重要事項説明書』と『契約書』を説明し、解らない事はいつでも聞いて下さるよう声掛けしている。退所の事態が生じた時には、スタッフ、ご家族、医師の意見を聞いた上で総合的に判断している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアカンファレンスには、ご利用者様に参加していただき、ご家族様来苑時には、近況等お話して、ご意見を伺っている。	コロナ禍、窓越しの面会を続けている。家族の方々のご協力も有難く、年賀状や誕生日のメッセージカード等も届いている。家族の面会時に情報交換を行うと共に、ご本人との担当者会議の議事録（ご本人の希望等）・主治医からのご意見と共に、写真も同封して郵送しており、ご利用者の名前を管理者が“消しゴムはんこ”で作り、押ししている。今後も日々の活動の写真を増やし、暮らしぶりを報告する予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務年数の長い職員が大半で、「まずは、トライ。」を合言葉に、実践後振り返りをしている。	管理者が日々の業務（日勤・夜勤）に入っており、職員の思いなどを共有している。コロナ禍においても感染対策の方法を検討し、ケア内容の情報交換を続けてこられた。代表・管理者を含め、職員が意見を伝えやすい環境を作られており、職員同士の助け合いもあり、定時で帰れるようにしている。	コロナ禍、外部研修の受講ができない状況にあった。今後は事業所としてネット環境を整え、職員がオンラインでの外部研修を受講できる機会を作っていければと考えている。

12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日が取りにくい時は現職員のフォローがありがたい。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時は日勤の職員も面接に入り、一緒に検討している。性別年齢等を理由に採用対象から外すことはない。研修は勤務扱いにし、参加してもらっている。	採用時は初任者研修受講者を理想としているが、資格が無い方も含め、「優しく、頑張り屋で、真面目そうな方」等を採用ポイントにしている。採用後は職員の特技「料理上手」「レクが上手」「歌が上手」「掃除が上手」等を発揮して頂いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ケアカンファレンス時にしている。	毎月の委員会を通して、研修が行われている。勤務が長い職員もおられ、ご利用者の意向や要望などを大切に検討が行われている。優しい職員ばかりで、馴染みの関係になっている。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で、外部研修を控えている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと電話にて連携を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者による事前面会を実施し、ホームにも見学に来られるようお勧めし、感情や表情、反応を見させていただいている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	キーパーソンになられるご家族に、何故グループホームを選択されたのか？経緯を聞く中で現在困っている事、入居後に不安や疑問に思う事を相談できる体制づくりにしている。		

19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容や公的介護保険サービス、福祉サービスの利用状況や家庭環境によって、居宅支援事業所や関係諸機関を紹介したり、電話の取り次ぎをさせていただいている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共感の場を大切ににして、お互いに認めあう関係性に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家庭環境や居住地により、ご訪問に限られるご家族の気持ちを第一とし、日々のご本人の暮らしや気持ちのゆれ等を客観的に伝えられるように努めている。		
自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族とドライブに出かけられたり、馴染みの美容室でヘアカラーされている。	ホームのパンフレットに「住み慣れた地域の中で～」という表現があり、ご利用者の生活歴などの把握に努めている。コロナ前は地域のサロンに参加し、馴染みの方と交流されていた。コロナ禍は参加を自粛しているが、サロンの方が塗り絵用のカレンダーを届けて下さっている。コロナ禍も馴染みの方が野菜や果物を持って来て下さり、馴染みの美容室に家族と行かれる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物整理等の協働の場を設け、共同作業が苦手な方でも疎外されないよう、保持する能力が活かされるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、退居先に自然な形で訪問し、関係性の維持を図っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを十分聞きながら、苑での生活が円滑に送られるように支援してきた。困難な場合は、スタッフや専門医師の意見を聞き家族とも相談して解決してきた。	ご本人も担当者会議に参加し、要望を伝えたり、日々の会話の中で生活歴や信仰等の把握に努めている。「お饅頭が食べたい」「美容室に行きたい」等の願いを叶えたり、馴染みの日課を把握し、朝のお参り等を含め、ご本人のペースで過ごされている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の病歴、施設、居宅介護支援事業所からの申し送り書、市町村の介護認定結果の写し、本人、家族の聞き取り、入居後の状態を把握し、総合的に判断し介護計画を作成する。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活動作で、その日の健康状態、本人の何気ない会話や思いの変化を感じ取り、その人らしい生活が送られるように援助して信頼関係を築いてきた。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝の申し送り、毎月のケアカンファレンス検討会で、担当医師の意見、ケアプラン評価表、介護計画2表を基に、本人、管理者、看護師、介護職、ケアマネージャーで意見交換して作成している。検討会の結果は家族に郵送している。	介護支援専門員が主になり、アセスメント・評価表・要約表を作成している。職員に上記資料を提示しながら、更なる情報交換と話し合いをしている。ご本人や主治医との担当者会議も行い、記録に残しており、家族にも書面で情報提供している。介護計画には「健康状態の支援」「日常生活を楽しく暮らす」「生活の質」「転倒リスクの解消」等の視点を大切に作られている。体調が変化した際は、介護計画の見直しを行っている。	①生活歴も詳細に聞き取れており、アセスメントに追記していく予定である。 ②有する能力の視点もあり、今後も「ADL・IADLの能力（できそうなこと）」「楽しみや役割」「要望」「介助理由」「解決策」等を増やしていく予定である。 ③介護計画原案を基に家族の要望を教えて頂き、介護計画の話し合いを行っていきたいと考えている。
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを基本として、日課生活記録並びに食事、水分、排泄、バイタル、体重変化等の身体状況記録を、いつでも職員が見れるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍前まで、利用者様の家族が面会に来られる際、近隣の駅まで送迎したり、宿泊が必要な際には、その支援を行えるようにしていた。		

31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前まで、民生委員、ボランティア、地域の方々が気軽に立ち寄り、小学生、中学生の訪問もあり、関係性の強化、維持に努めていた。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、相談しやすい関係で、毎週の訪問診療をご利用様も楽しみにされている。看護師は勤務しており、介護職員の観察力が鋭く、早期発見に繋げる事ができ、緊急時の対応も機敏にできている。	協力医療機関（全員の主治医）とは24時間体制で連絡が取れる。毎週の往診結果や職員が受診介助をした時を含め、家族と共有できている。認知症専門医の受診は家族も同席しており、医師の説明を一緒に聞かれている。行動障害も医師に相談し、薬の調整等をして下さる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用様が、かかりつけ医との契約をされており、週1回の訪問診療、健康管理、心身の状況変化に応じた支援体制で速やかに組めるようになっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病室にいられるまで、どのような時間帯でも付き添い、病棟看護師には当ホームの職員が、必ず申し送るようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの方針を説明している。協力医療機関が病院と施設を持っており、必要に応じて紹介している。体調が変化した時は随時主治医に相談し、家族も一緒に今後の事を相談している。	「重度化された時は提携特別養護老人ホームにお願いしており、終末期は協力医療機関にお願いしている」事を入居時に説明している。ご利用者の体調変化は主治医に相談し、家族と一緒に今後の検討をしている。重度化予防で、“自分の足で歩く”事などを大切にされており、日々の体操なども続けている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	『応急手当と事故発生時の対応の仕方』の書をいつでもスタッフが見れるよう、ボード横に下げている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを設置している。2年に一回は消防署の指導も受けている。夜間想定訓練もしており、災害に備えて備品や食糧を準備し、漏電対策のチェックも毎月続けている。	コロナ前は消防署と一緒に訓練が行われていた。コロナ禍は防災会社の職員と昼間想定訓練を行い、自主訓練で夜間想定訓練が行われている。災害に備えて懐中電灯、ランタン、卓上ガス台（ボンベ）、食料や飲料水等を準備している。災害時は身障トイレも整備している“まいピア高田”に避難予定にしている。	夜間は職員1人で勤務しており、今後も消防団や地域の方々との協力体制を作っていきたいと考えている。BCP（事業継続計画）の作成作業も始めており、地域の協力者も盛り込んでいく予定である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬愛の念を持ちという理念を毎朝唱和し、ご利用者様同士のトラブルが見られた時は、職員が間にいり言葉遣いにも配慮している。	「みんな仲良く、家族的に」という思いを大切にされており、職員も明るく、優しく、声かけをされている。ホームのパンフレットに「個人情報に関する基本方針」を記入しており、守秘義務に配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に考えて頂く等の待ちの介護を重視し、ゆったりとした関わりをもち、意思表示の場面が少しでも多く出るように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくご利用者様の意思を尊重して、希望に添って臨機応変に対応するようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを把握されたご家族の支援を得て、おしゃれが維持されるよう、努めている。		

42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも職員が料理し、魚と肉は交互、栄養バランスも配慮している。食欲旺盛な方が多く、職員も一緒に食べている。	近所の方や家族、職員から野菜等の差し入れが多く、3食とも料理上手な職員の方々が季節料理を作られている。ご利用者も“豆そろえ”や“ネギそろえ”などをして下さり、味見も大切な役割になっている。台所からリビングを眺める事ができ、リビング側にも流し台があり、ご利用者が手を洗われている。ドライブの際に購入した回転饅頭を楽しまれることもある。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事量、水分摂取量を記録しており、嗜好品は家族が持参されたり、一緒に買いに行かれている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、一部介助している。義歯は就寝前に必ず洗浄剤による管理を支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にしており、全員の排泄パターンを把握し、個別記録に残している。夜間はポータブルトイレを利用する方が多い。	重度化されており、見守りや介助を行う方が多い中、風間は全員トイレで排泄されている。排泄パターンを把握し、パッドの必要性や大きさも個別に検討している。必要に応じてトイレ誘導を行い、夜間はポータブルを利用する方もおられ、個々の能力に応じて必要な支援が行われている。トイレ掃除も徹底しており、尿臭等もない。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄チェック表で排泄状況を把握し、早めに冷たい牛乳等を飲んでもらいながら、自然な形で排泄されるよう努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2～3回は、入浴できるようにしている。拒否が見られる方には、無理強いせず声掛けの工夫をしている。	3方向から入浴できる浴槽で、お風呂場も広く、滑らないように配慮している。湯船に入る際は福祉用具の椅子を活用し、座って安全に入浴されており、できる所は洗って頂いている。入浴時は昔話に花が咲き、ミカンの皮などを湯船に浮かべて楽しまれている。「入浴」「着脱」ということを理解できない方もおられ、その方に応じた誘導の仕方を工夫していく予定である。	

48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調が悪そうにされている時は、居室で休まれるように声掛けし誘導している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに、薬状はすぐ見えるようファイルしており、理解できるようにしている。また、訪問診療時や電話でもドクターやナースに質問している。		
自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様と一緒に体操をしたり、歌を唄ったり、塗り絵等をしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、出かけなかった。	リビングやテラスから登下校中の小学生と手を振り合ったり、周辺を散歩し、桜やチューリップを眺めることもできた。家族とドライブされる方もおられ、受診の際も海沿いや町の中心部等のドライブを楽しまれている。コロナ以前は季節に応じた花見(桜、藤、薔薇、秋桜)、鯉々祭り、ひな祭り見学と共に、職員と買い物に行かれたり、家族と外食や自宅に帰られる方もおられた。今後も気候に応じて、敷地内の散歩などを増やしていく予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はお断りしているが、強制ではなくご家族に自己管理していただいている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、事前にご家族の了解を得たうえで、希望者には事務所の電話を使用してもらっている。		

54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから畑や木々の緑が見え、行き交う車や登下校する小学生を眺める事ができる。ご利用者様の関係性も把握し、座席の配慮を続けている。	台所とリビング、事務所の周囲に各居室がある。職員の立ち位置によっては見えない場所もあり、夜勤時は物音等の気配りをしている。リビングは明るく、テラスもあり、椅子に座って日向ぼっこをされたり、八重桜を楽しむこともできる。毎月のカレンダーを作成し、月日の確認などをされている。換気を行い、掃除も丁寧に行われている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の心の在り様に応じて、自分の場が見つかるようにソファ、テーブルを配置している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は、自宅で使い慣れた物を持参して頂くようお願いしており、布団や洋服、写真等も飾られている。	ベッドは備え付けで、体調に応じた手すりを付けている。入居時は、自宅で使い慣れた物を持参して頂くようお願いしており、衣類、布団類、テレビ、冷蔵庫、ハンドバッグ、目覚まし時計等を持ちこまれ、写真、葉書き、プレゼントの置物も置かれている。職員と一緒に整理整頓される方もおられ、換気や掃除も適宜行われている。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所要所に手すりを配置し、サポート出来るようにしているが、基本的には過剰な介助とならないように注意し、人的対応による生活支援をその基本としている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				